

週刊 タバコの正体

第7話

タバコは、どうして「いつでもどこでも買える」のでしょうか。

皆さんは、ほとんど気が付いていないでしょうが、タバコのパッケージには次のような警告文が表記されています。こんな危険なものが、「いつでもどこでも買える」のってマズイはずです。

喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなります。疫学的な推計によると、喫煙者は肺がんにより死亡する危険性が非喫煙者に比べて約2倍から4倍高くなります。

でも、タバコの自販機は全国で32万台も設置されているし、4万4千店舗のコンビニでも24時間タバコを売っています。さらには、スーパーや高級デパートでも販売していますよね。皆さんの通学途中にも、数多くの自販機とコンビニがあることでしょう。こんなにいろんな所で販売しても儲かるほど、タバコは売れています。ちなみに日本たばこ協会によると、昨年の販売本数は約2000億本だったそうです。

それもそのはずで、全国にはタバコを買わなければ生活していけないニコチン依存症の人が推計で2000万人以上もいますので、売れないわけがありません。喫煙者にとってタバコは生活必需品なわけですからね。喫煙者の立場からみると、生活必需品のタバコが「いつでもどこでも買える」環境は妥当なのかもしれません。

そして、「喫煙者は定期的に必ずタバコを買ってくれる」ので、国にとっても都合がいいのです。明治時代、タバコの製造・販売は国が独占し、その売上は国家予算に組み込まれていました。予算に組み込めるほど確実な財政収入だったということなのです。

現在は、国が独占しているわけではありません。しかし、以下の法律でタバコが売れるように国が支援しています。「お金のためなら、肺がんになっても関係ないの？」ってビックリしませんか。

たばこ事業法 第1条

この法律は、たばこ専売制度の廃止に伴い、製造たばこに係る租税が財政収入において占める地位等にかんがみ、製造たばこの原料用としての国内産の葉たばこの生産及び買入れ並びに製造たばこの製造及び販売の事業等に関し所要の調整を行うことにより、我が国たばこ産業の健全な発展を図り、もって財政収入の安定的確保及び国民経済の健全な発展に資することを目的とする。